

再評価項目調書

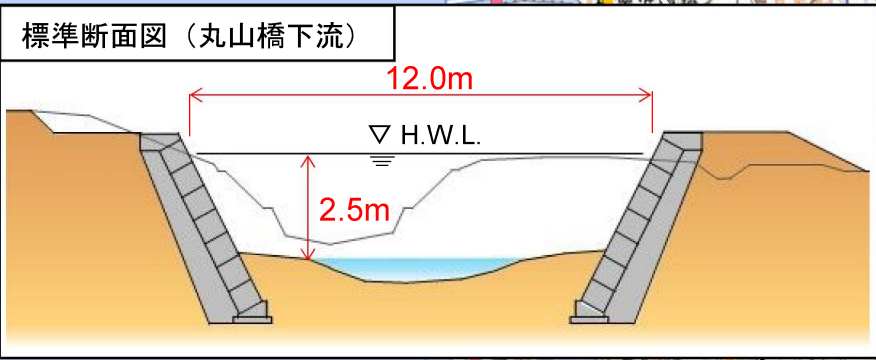
再評価実施要件		○ 事業採択後 () 年 ● 再評価後 (5 年) ○ その他 ()				
1 事業 概要	事業名	とんだがわ 友田川 総合流域防災事業				
	事業場所	下関市やすおか 地内				
	事業主体	山口県				
	事業期間	《 前回評価 平成 27 年 時 》 平成 18 年度 ~ 令和 12 年度 《 令和 7 年度 》 (西暦 2006 年度 ~ 西暦 2030 年度 《 西暦 2025 年度 》)				
	総事業費 (内用地補償費)	《 1,535 百万円 》 1,535 百万円 (215 百万円)	既投資額 (内用地補償費)	906 百万円 (189 百万円)	進捗率 (用地補償費)	59 % (88 %)
	事業目的	とんだがわ 友田川は、下関市よしみの 龍王山を源とし、下関市西部を流れ 磐灘に注ぐ、流域面積9.3km ² 、流路延長5.0kmの二級河川である。 友田川流域のうち、事業区間周辺には、公共施設や商業施設、家屋が立地しており、JR山陰本線や国道191号、県道安岡港長府線等の主要な交通網も整備されている。 しかしながら、当該区間は、洪水に対する安全度が低く、平成11年6月豪雨や平成15年7月豪雨、平成18年7月豪雨、さらには平成30年7月豪雨により浸水被害が発生していることから、河川改修を実施し、浸水被害の軽減を図る必要がある。				
	事業内容	延長 L=700m (河道掘削工、護岸工、築堤工、橋梁工) 洪水対策の整備規模 年超過確率 1/5				
事業効果	年超過確率1/5の洪水時における浸水被害防止効果 浸水戸数 614 戸 → 0 戸 浸水面積 42 ha → 0 ha 被害額 5,866 百万円 → 0 百万円 平成11年6月豪雨の洪水時における浸水被害防止効果 浸水戸数 190 戸 → 0 戸 浸水面積 16 ha → 0 ha					
2 再評価の 視点	(1) 社会経済情勢の変化	浸水想定区域内では、前回評価から世帯数が増加し宅地化も進んでいることから、治水対策の必要性は依然として高い。 【浸水想定区域内の状況変化(国勢調査)】 《安岡地区ほか》 ○人口 : 1.01倍 (3,008/2,987人) <H27/H22> ○世帯数 : 1.03倍 (1,144/1,107世帯) <H27/H22> 《参考:県全体》 ○人口 : 0.97倍 (1,405/1,451千人) <H27/H22> ○世帯数 : 1.00倍 (597/596千世帯) <H27/H22>		中項目 評価	大項目 評価	
	関係市町及び地元の意向	当該事業は、自治会、水利権者等の地元関係者や学識経験者等により構成する川づくり検討委員会です承されている。また、これまでの浸水被害の経験から、地元自治体である下関市や地元住民からの被害軽減に対する要望は強い。		中項目 評価	大項目 評価	

2 再評価の視点	(2) 事業の投資効果	費用対効果 分析等	(単位：百万円)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">主な項目</th> <th>前回 (基準年：H27)</th> <th colspan="2">今回(再々評価) (基準年：R2)</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>全体事業</th> <th>全体事業</th> <th>残事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5" style="text-align: center;">便益 (B)</td> <td>①一般資産被害軽減便益</td> <td style="text-align: right;">16,490</td> <td style="text-align: right;">28,823</td> <td style="text-align: right;">13,754</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②農作物被害軽減便益</td> <td style="text-align: right;">10</td> <td style="text-align: right;">8</td> <td style="text-align: right;">4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③公共土木施設等被害軽減便益</td> <td style="text-align: right;">27,934</td> <td style="text-align: right;">21,796</td> <td style="text-align: right;">10,417</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④その他の便益</td> <td style="text-align: right;">2,176</td> <td style="text-align: right;">3,121</td> <td style="text-align: right;">1,534</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総便益</td> <td style="text-align: right;">46,610</td> <td style="text-align: right;">53,748</td> <td style="text-align: right;">25,709</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center;">費用 (C)</td> <td>①事業費</td> <td style="text-align: right;">1,588</td> <td style="text-align: right;">1,693</td> <td style="text-align: right;">478</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②維持管理費</td> <td style="text-align: right;">178</td> <td style="text-align: right;">194</td> <td style="text-align: right;">55</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総費用</td> <td style="text-align: right;">1,766</td> <td style="text-align: right;">1,887</td> <td style="text-align: right;">533</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用便益比(B/C)</td> <td style="text-align: right;">26.4</td> <td style="text-align: right;">28.5</td> <td style="text-align: right;">48.2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 便益(B)・費用(C)は、算出した各年次の値を割引率を用いて現在価値に換算した合計額</p> <p>【費用対効果分析手法】</p> <p>○根拠マニュアル 治水経済調査マニュアル(案) 令和2年4月 国土交通省水管理・国土保全局</p> <p>○各便益の説明</p> <p>①一般資産被害軽減便益：整備により軽減される家屋、事務所、農漁家の資産被害額</p> <p>②農作物被害軽減便益：整備により軽減される農作物被害額</p> <p>③公共土木施設等被害軽減便益：整備により軽減される公共土木施設等(道路、農地、農業用施設等)の被害額</p> <p>④その他の便益：施設の残存価値、整備により軽減される営業活動停止損失および応急対応にかかる費用</p>	区分	主な項目	前回 (基準年：H27)	今回(再々評価) (基準年：R2)		備考	全体事業	全体事業	残事業	便益 (B)	①一般資産被害軽減便益	16,490	28,823	13,754		②農作物被害軽減便益	10	8	4		③公共土木施設等被害軽減便益	27,934	21,796	10,417		④その他の便益	2,176	3,121	1,534		総便益	46,610	53,748	25,709		費用 (C)	①事業費	1,588	1,693	478		②維持管理費	178	194	55		総費用	1,766	1,887	533		費用便益比(B/C)		26.4	28.5	48.2		大項目 評価 A ・ B ・ C
	区分	主な項目	前回 (基準年：H27)	今回(再々評価) (基準年：R2)			備考																																																							
			全体事業	全体事業	残事業																																																									
	便益 (B)	①一般資産被害軽減便益	16,490	28,823	13,754																																																									
②農作物被害軽減便益		10	8	4																																																										
③公共土木施設等被害軽減便益		27,934	21,796	10,417																																																										
④その他の便益		2,176	3,121	1,534																																																										
総便益		46,610	53,748	25,709																																																										
費用 (C)	①事業費	1,588	1,693	478																																																										
	②維持管理費	178	194	55																																																										
	総費用	1,766	1,887	533																																																										
費用便益比(B/C)		26.4	28.5	48.2																																																										
(3) 事業の進捗	事業の進捗と 今後の見通し	<p>事業延長700mのうち、JR山陰本線橋梁及び安良我橋^{やすらがはし}の架け替え及び安良我橋の上下流約200mにおいて、河道掘削工、護岸工が完了し、洪水に対する防護機能が向上している。</p> <p>今後も計画的な事業進捗が見込まれることから、引き続き、河道掘削工や護岸工、橋梁工等の河川改修を行い、浸水被害の軽減に努める。</p>	大項目 評価 A ・ B ・ C																																																											
		<p>【事業費の変化】 有 (無)</p> <p>【事業期間の変化】 (有) 無</p> <p>用地取得に時間を要したため、事業期間を延伸する。</p>																																																												
(4) 代替案等の可能性	コスト縮減	発生土砂の現場内流用や他工事への流用を積極的に行い、土砂の有効利用を図る。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">中項目 評価</td> <td style="text-align: center;">大項目 評価</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">a b</td> <td style="text-align: center;">A</td> </tr> </table>	中項目 評価	大項目 評価	a b	A																																																							
	中項目 評価	大項目 評価																																																												
a b	A																																																													
代替案	代替案として「放水路案」などが考えられるが、経済性等の観点から、現計画の「河川改修案」が妥当である。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">中項目 評価</td> <td style="text-align: center;">大項目 評価</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">a b</td> <td style="text-align: center;">B ・ C</td> </tr> </table>	中項目 評価	大項目 評価	a b	B ・ C																																																								
中項目 評価	大項目 評価																																																													
a b	B ・ C																																																													
3 環境	配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・低騒音・低振動の建設機械を使用する。 ・汚濁防止対策として、河川内工事に際しては、汚濁防止膜等を設置する。 ・河道掘削を実施する際は、みお筋や瀬、淵を形成するとともに、護岸については、環境に配慮した構造とすることで、動植物の多様な生息・生育環境の維持保全に努める。 																																																												
4 対応方針	総合評価	● 継続 ○ 見直し継続 ○ 中止																																																												
	評価理由	事業の必要性、費用対効果等を勘案し、事業継続が妥当と判断する。																																																												
	備考																																																													

ともだ がわ 友田川 総合流域防災事業



- 凡例
- 施工済区間
 - 未施工区間



この地図は、国土地理院の地理院地図(電子国土Web)の一部を掲載したものである。